

令和8年6月 市長記者発表の結果について

日時 令和8年6月9日（火）午前11時00分～11時20分

場所 市役所2階 第1委員会室

出席 市政記者クラブ11社 12名

会見内容

皆様、おはようございます。

本日は、令和7年度に釧路市と釧路公立大学地域経済研究センターで実施いたしました共同研究「北海道の物流における環境変化を踏まえた釧路港の今後の課題に関する研究」に関しまして、本年5月1日に研究結果の概要を発表させていただいたところですが、その内容及びその後の報道について補足説明の必要があり、この場を設けさせていただいたものでございます。

さっそく、お手元の資料に沿ってご説明いたします。

1. 発表内容（1項目）

1 「北海道の物流における環境変化を踏まえた釧路港の今後の課題に関する研究」に係る補足説明について

■ 最初に、「1 本日の会見の趣旨」でございます。

只今申し上げたように、5月1日付で研究結果を発表し、各社に報道いただいたところであります。

本研究は、国土交通省の貨物流動調査結果などのデータをもとに釧路市の物流を分析し、今後の釧路市の物流についての提言をまとめ、港湾計画等の施策の参考とすることを目的としたものでありましたが、本研究に関する新聞報道が、国土交通省の貨物物流調査結果データのみを切り抜いて独自に解釈し、製紙工場撤退により釧路の物流量が大幅に減少したとの印象を与える内容となっていました。

■ しかしながら、実際の釧路港の取扱量を見ますと、バルク戦略港湾としての荷揚実績において増加要素もあることから、5月27日付で補足説明を発表させていただきました。

■ 報道後、道内外の多くの方々から、釧路の物流が半減して大丈夫かのご心配をいただいたほか、地域の物流事業者の皆様からも実態と違うとのご指摘をいただいたところであります。

■ 製紙工場の撤退後には、地域の物流事業者の皆様には様々な努力をいただき、撤退の影響が最小限となるよう、釧路の物流を支えてきていただいております。

本日は、その内容について改めてご説明するとともに、研究結果を踏まえた釧路港物流戦略の方向性についてお話しさせていただきたいと考えております。

■ 「2 補足説明事項」でございます。

1点目は、先ほど趣旨の中でも触れたとおり、本研究においては、物流量に関する統計数値を2か年（平成30年と令和5年）の単純比較で問題を論じることを意図するものではなく、北海道物流が抱える課題に対して、釧路港が担うべき役割についての提言をする内容となっております。

■ 次に、補足事項の2点目は、物流量に関しては「釧路と他地域の物流動態」を把握する必要があるということであります。

■ 5月1日の発表資料でお示した、「貨物地域流動調査」による道内地域間輸送のデータは、釧路発～釧路着の地域内の輸送も多分に含んでおり、その域内配送を除いて比較すると、他地域に比べ釧路だけが突出して減少しているわけではない状況となっております。

■ 以上が補足説明事項となりますが、その上で、「3 研究結果を踏まえた釧路港物流戦略の方向性」についてでございます。

■ この度の研究におきましては、物流を取り巻く環境が大きく変化する中で、道東物流を支える拠点として、釧路港の役割が高まっていることが見えてまいりました。

■ 昨年度策定いたしました「釧路港長期構想」におきましては、「ひがし北海道の物流拠点」を重要な柱の一つとして位置付けており、現在進めている港湾計画の改訂においても、「RORO船を活用した物流機能の強化」や「ストックポイント形成の検討」、「モーダルシフトへの対応」について具体的な検討を進めております。
参考資料を配布しておりますのでご参照ください。

■ 説明は以上でございます。報道各社におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、改めて、釧路港の未来、活用の可能性の観点で報道をお願いいたします。

発表内容（２項目）

くしろ市民応援クーポン（電子クーポン）の発送について

- 続きまして、「くしろ市民応援クーポン」につきましては、５月２５日の記者懇談会でもご説明させていただいたところですが、市民からの問い合わせも多いことから、改めてご報告させていただきます。
準備は予定通り進んでおり、現在、順次、市民の皆様へハガキの発送を行っているところであります。
- 当市における物価高騰対策といたしましては、市内の登録店舗で利用できる１人１万円の電子クーポンを世帯ごとに配付することにより、消費を通じて地域経済の活性化を図る考えで進めております。
- くしろ市民応援クーポンにつきましては、広報くしろ６月号へ掲載のとおり、転送の設定をされている方など一部を除いて、６月１４日までに各世帯へ圧着ハガキを送付し、６月１６日から利用開始といたします。
- 利用方法については、スマートフォンをお持ちでなくても、届いたハガキそのまま利用が可能であり、登録店舗が読み込むことで決済が完了します。併せて、スマートフォンなどの専用アプリでも使うことができるよう準備を進めております。
- なお、専用アプリのダウンロードは６月１２日金曜日に開始いたします。また、ハガキからアプリへの残高の移行は、利用開始と同時の６月１６日からとなります。
- 来週１６日の利用開始に向けて、市民の皆様に安心してご利用いただけるよう、引き続き準備に取り組んでまいります。
- 説明は以上でございます。

2. 質疑要旨

(質問)

- ・ 今回、会見の趣旨をご説明されましたが、5月1日に研究結果がプレスリリースされ、その後5月27日に補足説明資料を出されたうえで、本日発表することとなった背景と経緯をあらためてお聞かせください。

(市長)

- ・ しっかり報道機関の皆様に認識をいただいて、必要であれば追加の記事もお願いしたいと思っております。

(質問)

- ・ 5月1日と27日のプレスリリースを拝見すると、域内輸送を除いた数字が出されていたと思います。1年近くかけて行った研究と思いますが、新たに再集計したものが出され、最初の集計や解釈の仕方が学問的に誤っていたのか、お聞かせください。

中村先生にお聞きしたいです。

(中村地域経済研究センター長)

- ・ 最初に発表したデータについては、釧路と北海道の物流の概要で、どこからどこまで貨物が輸送され、どのような貨物が輸送されているか、輸送の品目等地域の全体の流動を把握することが第一の目的でした。そのために地域間輸送のデータを使用しました。

本日の補足説明にも記載されていますが、地域間流動の調査にそのままの数字を使うと、釧路から釧路あるいは札幌から札幌という地域の中の移動が、7から8割程度となるが、ここの数字が影響することになります。

本日配布した資料を見ていただくと、地域間の輸送というのは補足説明の3段書に釧路でいうと市内の宅配便のような個人宅の配送や、一旦釧路で保管された貨物の市内の横持ち輸送が大きなウェイトを占めることになります。

但し、地域の物の流れとしてみると構成比等は、その数字をそのまま使っていますが、物流を他地域と比べるときは、長距離移動や地域間移動が物流の主体であり、地域の物の流れとしても主流です。地域の中の配送を含めた数字で比較すると、物流の本質を見失うという側面があります。

当初の研究では、配送を含めた数字を見ていたが、地域の物流の力がどうなのかそういった切り口で報道をされたと思います。その切り口からすると、横持ち輸送や配送を除いた数字で見ないとフォーカスしたものを見誤ってしまうこともあり、誤解が生じたので配送を除いた数字を出しました。

どちらが学問的か、輸送・物流の話と細かい配送も含めた話、切り口の違い。調べる結果が地域を比較する場合は、配送を除いた形でなければ物流業務の振興や物流業を見るうえで難しいので、改めて数字をお示しました。

(質問)

- ・ 説明を聞きますと、5月1日に発表されました研究の主な結果の中で、道内全体で減少しているが、その中でも釧路の落ち込みが大きいや、釧路の物流は釧路発・釧路着ともに大きく減少しているという表現を修正する必要があると思いますが、5月27日の資料では、そこまで読み込めないと思います。弊社も最初に出されたデータを踏まえて、紙パルプも品目別に落ち込んでいますし、市内2社ある中の1社、日本製紙の撤退もあり全体的に5割強落ち込んだということは、違和感が無い数字だと思いましたが、この解釈も誤っていたとの理解でよろしいでしょうか。

(中村地域経済研究センター長)

- ・ 当初、釧路の中の配送も含めた数字で、今回の調査は最初の目的をお話したとおり、二次点比較で物流量が落ちたかどうか、他地域との比較は主流の目的としていませんでした。

そのため、物流量の数字の変化のところに配送も含めており、減少の数字についても原因・背景の中に日本製紙の撤退もあったということもありますが、数字だけの説明なので背景についてはリリースペーパー上や報告書上は記載していませんでした。アンケートや構成比の部分を主眼にして調査を行いました。数字の構成比と減少のところが注目されてしまいましたが、その背景の分析まで十分していませんし、このデータからはできません。

数字の説明自体は誤りではありませんが、誤解を招きました。アンケートや今後の展望が主流であるというお話です。

しいて言えば、物流の二時点比較をするとすれば、配送を除いた数字で見るのがより実態を表しています。但し、この数字も地域の物流全体の構成比、モード別を見るメインの数字で、二時点比較だと調査の手法やアンケート標本の話は、必ずしも厳密に比較できるかどうかは難しいところがあります。そういう経緯があったということになります。